

令和元年度「地域づくり表彰」受賞団体の概要

(別添資料1)

受賞名 受賞団体	活動の概要	問合せ先
<p>国土交通大臣賞 特定非営利活動法人日高わのわ会 【高知県日高村】</p>	<p>地域での高齢化が進む中、子育て支援センターに集まる母親たちが、子育てをしながら地域課題を解決する場の創出を目指して、平成14年3月より住民の有償ボランティア活動グループ「わのわ」を結成した。 様々な地域課題の解決のためには、事業活動を継続的に展開できる体制を整備する必要があるという問題意識から、平成17年3月に特定非営利活動法人日高わのわ会として団体を設立し、地域課題をきめ細かく汲み取り、それらの解決に向けて買い物支援サービス、地域特産品の販売事業等活動を拡大させた。 地域特産品の販売事業では、地元農家で廃棄されてしまうトマトの活用を目指して、高知大学土佐フード講座に赴き、商品開発アイデアを収集し、廃棄されるトマトを活かした地域特産品の開発を進めた。また、大学講師など多様な主体との関係を活かし、全国各地で販売交渉・販路拡大を行い、事業の拡大・継続を実現した。 このような活動を通して、現在の年間収入は活動当初から約8倍に増大し、事業活動を継続的に展開させるとともに、様々な地域課題の解決に対応できる体制が確立された。 当団体は、多様な主体と連携して事業活動を継続しながら、地域の課題解決に取り組む体制を確立し、地域産業の振興及び地域の雇用確保に大きく寄与した点が高く評価された。</p>	<p>日高村 企画課 0889-24-5126</p>  <p>村農家から余剰の特産品シュガートマトを引取り加工しブランド商品として全国販売</p>
<p>全国地域づくり推進協議会 会長賞 鹿部町製品開発研究会 【北海道鹿部町】</p>	<p>異業種や転入者の会で「地域の素材で新たな特産品」との声があがり、土木、建築、商工、金融等の有志6名で「鹿部町製品開発研究会」を発足させ会員の持ち味で情報収集、研究を開始した。 未利用の地域資源の活用を目指していた鹿部町製品開発研究会は昭和4年の駒ヶ岳大噴火の際に積もった軽石の吸水性に着目し、前浜産の魚で「新たな塩干品」の開発に着手。吸水力の高さ、粒度や魚種ごとの熟成時間等の研究を進めた。2年目から町内製造販売業の(株)イリエ船橋商店が共同研究会社として加わり、約3年の研究を重ね「ふっくら軽石干し魚」が完成し、平成29年12月から販売を開始した。 製造方法の保護と拡大を目指し平成31年3月に軽石干しを商標登録し、地域ブランドの確立に向けた取組みを進めている。</p>	<p>鹿部町 企画振興課 01372-7-5297</p>  <p>駒ヶ岳大噴火の際に積もった軽石を使った「ふっくら軽石干し魚」</p>
<p>全国地域づくり推進協議会 会長賞 かまくら応援隊 【長野県飯山市】</p>	<p>日本有数の豪雪地帯、長野県飯山市の信濃平スキー場が平成13年に閉鎖されることになり、スキーに代わる地域の新たな魅力創出のため、地元の民宿経営者らが始めたかまくら作りとかまくら祭りが「かまくら応援隊」発足のルーツであり、当初4、5人で地道な活動を続けていたところ、豪雪や寡雪の年も経る中で、徐々に活動に賛同してくれる有志が増え、平成20年に「かまくら応援隊」が結成された。 地元企業の特注品バルーンを使った、かまくら作りのノウハウが構築され、平成24年からは地元の一般社団法人信州いいやま観光局と連携し、かまくらの中で鍋を食べる「レストランかまくら村」が旅行商品化された。 祭りやレストランへの来場者は年々増加し、外国人旅行者にも人気に。飯山市公式観光パンフレットの表紙には、かまくらが大きく掲載されている。今や飯山の冬の風物詩となったかまくら祭りは、令和2年に20周年を迎える。</p>	<p>飯山市 企画財政課 0269-62-3111</p>  <p>かまくら作りの特注バルーン「かまくらくん」</p>
<p>全国地域づくり推進協議会 会長賞 特定非営利活動法人 ほほえみの郷トイトイ 【山口県山口市】</p>	<p>平成22年に地区内唯一のスーパーが撤退したことを機に、地福地域づくり協議会を中心に課題解決に取り組み、議論を重ねたのち、平成23年末に地域の将来構想である「地福ほほえみの郷構想」を掲げた。構想に掲げた地域拠点を中心とした新たな地域のしくみづくりに取り組むため、地福ほほえみの郷運営協議会を発足し、平成24年4月に「地域の絆でつくる笑顔あふれる安心の故郷づくり」をキャッチフレーズに地域交流拠点ほほえみの郷トイトイを開設した。 ほほえみの郷トイトイには、ミニスーパーと交流スペースを併設し、地域住民が主体的に地域づくりに取り組むため地域ニーズが集約されるしくみづくりを行った。開設から2年後の平成26年4月、持続的な活動とするためにNPO法人として法人化し、地域課題の解決のためニーズに基づく事業を展開している。 主な事業として、移動販売車による買い物支援や総菜加工場の整備による地元女性の活躍の場づくりをはじめ介護予防事業や地域食堂、空き家活用などを行っており、地域のあらゆる世代が地域で輝くための地域運営に取り組んでいる。</p>	<p>山口市 総合政策部 企画経営課 083-934-2746</p>  <p>地域に点在する高齢者をつなぐ新たなコミュニティとしての移動販売車「トイトイ号」</p>

<p>国土計画協会 会長賞</p> <p>特定非営利活動法人今庄旅籠塾</p> <p>【福井県南越前町】</p>	<p>今庄宿は北陸道の要衝であり「宿場のまち」「鉄道のまち」として多くの旅人が訪れ栄えてきたが、近年、人口減少や空き家の増加で歴史的景観が消滅しつつある中、江戸後期築の旧旅籠若狭屋が取り壊されることになった。今庄宿のシンボルを解体の危機から救うことで本活動が始まった。</p> <p>若狭屋を拠点としながら行っている活動は、今庄宿の歴史的町並みの保存に留まらず、文化の継承、住民生活の支援にまで広がって今日に至っている。本NPOの特徴的な活動である「町家改修と宿泊体験」教育支援事業は毎年開催され、建築やデザインを学ぶ学生と共に改修工事が、若者にまちづくりへの参加を促し、リーダーとなり次代を担う人材の育成につながった。</p> <p>江戸期の旅籠を多目的文化施設に、昭和期の住宅をカフェに、明治期の弁当屋を資料館、物品販売所に改修活用する事業は町の「今庄宿プロジェクト事業(平成26～29年)」と「今庄宿まちづくり推進協議会(平成30年)」に波及し、まちづくりに係る住民の取り組みを先導する立場にもなっている。</p>	 <p>毎年開催される建築やデザインを学ぶ学生と共に町屋の改修工事</p>	<p>南越前町 観光まちづくり課</p> <p>0778-47-8013</p>
<p>日本政策投資銀行賞</p> <p>海部次世代園芸産地創生推進協議会</p> <p>【徳島県海陽町】</p>	<p>徳島県海部郡地域は、「促成きゅうり」の栽培を盛んに行ってきた。県南特有の恵まれた日照量を活かした促成きゅうりは県内トップの生産量を誇るが、担い手不足や高齢化が進行し、産地存亡の危機に直面している。</p> <p>このような中、特産品である「促成きゅうり」を核に移住就農を募る独自の担い手対策により地域活性化を目指す「きゅうりタウン構想」を企画し、それについての推進のため管内の海陽町、牟岐町、美波町、JAかいふ、県(南部総合県民局)が連携し「海部次世代園芸産地創生推進協議会」を立ち上げた。</p> <p>きゅうりタウン構想では(1)管内の農家の経営実態調査を行い、目指すべき目標設定、(2)新規就農者の育成を図る「海部きゅうり塾」開設、(3)篤農家の技術と養液栽培などの最新技術を組み合わせた次世代園芸技術の導入、(4)移住者受け入れのための情報発信など農業の発展と新規就農者の増加に向けた活動を進めている。</p>	 <p>次世代園芸実験ハウス (きゅうりの「養液栽培」を実証する拠点)</p>	<p>海陽町 農林水産課</p> <p>0884-76-1511</p>
<p>地域づくり表彰審査会特別賞</p> <p>みたか太陽系ウォーク実行委員会</p> <p>【東京都三鷹市】</p>	<p>国立天文台本部がある三鷹市で、2009年の“世界天文年”の機運醸成事業に端を発し、広く市民の自然科学への興味関心を高めるとともに、まちの魅力を再発見する機会として「三鷹の森 科学文化祭」の中心的な取り組みとなる「みたか太陽系ウォークスタンプラリー」を開始した。</p> <p>天文学では日常生活とかけ離れたスケールの対象を扱うが、本事業では太陽系を13億分の1に縮尺し、太陽系の中心たる太陽をJR三鷹駅に設定。同じ縮尺の同心円で市域を「惑星エリア」にゾーニングし、各エリア内の事業所、公共施設等に「惑星スタンプ」を設置するほか、期間中の市内イベントにも“彗星”スタンプを設置し、新たなまちの魅力やイベントにも触れられる機会を提供している。</p> <p>太陽系の惑星間の距離を疑似的に体感できる工夫や、押印用マップやスタンプ設置店等に天文学に関する知識や情報をちりばめる工夫など、スタンプラリーを楽しみながら自然科学への興味関心が高まる内容としている。2018年度は約270のスタンプを設置、マップは20,000部を配布し、スタンプを収集し賞品と交換した参加者は3,500人を超える規模となった。</p>	 <p>太陽系を13億分の1に縮尺し、太陽系の中心たる太陽の模型をJR三鷹駅に設置</p>	<p>三鷹市 企画部 企画経営課</p> <p>0422-45-1151</p>
<p>地域づくり表彰審査会特別賞</p> <p>CHITA CAT プロジェクト</p> <p>【愛知県常滑市】</p>	<p>常滑市は、愛知県知多半島西海岸の中央に位置し、日本遺産に認定された六古窯の1つである常滑焼の生産地であり、急須と招き猫の生産量は日本最大規模を誇る。2019年8月に開業した愛知県国際展示場など新たな開発が進む空港島・対岸のりんくうエリア(新しい常滑)と、歴史的な魅力溢れる観光資源が豊富な旧市街地(伝統的な常滑)が共存する多様性に富む街である。</p> <p>2005年2月伊勢湾に浮かぶ海上空港である中部国際空港セントレアが開港し、2015年12月海を隔てた対岸部にイオンモール常滑が開業した。CHITA CATプロジェクトは、『知多半島の地域活性化』を目的に、セントレア、イオンモール常滑、知多半島の趣旨に賛同する企業、団体、自治体等により発足された。</p> <p>【セントレア、りんくうエリア、知多半島】を一体としたエリアと捉え、垣根なく行き来できる環境の構築や、各施設の利用促進、共催イベントの実施など、有形・無形の各保有資産をフル活用した取組を共同で推進することにより、地域の魅力向上に積極的に寄与している。 ※知多半島内の店舗を含め計123店舗のエリア回遊クーポン(多言語版)</p>	 <p>空港到着ロビーで訪日外国人向け「CHITA CAT クーポン※」を配布</p>	<p>常滑市 環境経済部 商工観光課</p> <p>0569-47-6116</p>